

平成24年度
峡東教育事務所 学校教育担当情報誌

はぐくみ

平成24年11月30日発行(No.41)

★研究実践の成果を更に今後の実践へと！★

実りの秋 研究の秋、校内研究会を始め、研究指定校などにおける公開授業研究発表など多くの研究実践が行われました。校内研究会では可能な限り調整をし、指導主事要請に応えてきましたが、日程の重なりや他の業務との調整がつかず、全ての要請に応じることができなかつたこと申し訳なく思います。各学校においては積極的な研究活動ありがとうございました。

研究活動に関わってこられた全ての方々に、深く感謝申し上げます。

「笛吹市教育協議会センター校研究発表会」10/24(水)
御坂西小学校 石和東小学校 一宮南小学校

「金銭教育公開研究会」11/14(水)
塩山北小学校

「パイロットスクール事業授業力養成講座」
11/16(水) 石和中学校

「パイロットスクール事業事例研究会、
授業研究会」10/29(水)、11/26(水)
日川小学校



11.14.塩山北小 岡 八寿江 教諭
野尻あや子教諭

尚、今後次のような公開研究会が行われます。

「パイロットスクール授業研究会」1/16(水) 2/4(月) 石和中学校

「パイロットスクール事業授業力養成講座」2/1(金) 日川小学校

★ふれ合い訪問ありがとうございました★

峡東地区管内、全51小中学校、10月1日より11月29日まで、すべての学校訪問をさせていただきました。今回第2回の訪問では主に授業参観をさせていただきました。各先生方が常に授業改善の視点に立った、実践に厚みのあるたくさんの授業を参観させていただきました。今後も「学力向上事業」「校内研究会」「各種研究会」の成果を更に活用して頂き、児童生徒の心にも残る、「生きる力」を育む実践をよろしく願います。

各学校におかれましては、お忙しい中、丁寧なご対応本当にありがとうございました。深く感謝申し上げます。



10.17.加納岩小 小田和 恵 教諭



11.7.山梨小 安富 智恵美 教諭



11.7.東雲小 渡邊 尚英 教諭



11.12.岩手小 飯室 林 教諭



11.12.牧二小 阿部伸之介 教諭



11.17.大藤小 岩下 和子 教諭



11.19.加納岩小 三枝 清美 教諭



11.21.山梨南中 内田 貴之 教諭



11.21.祝小 中村 英彦 教諭



11.26.奥野田小 山縣 重人 教諭



10.31.一宮北小 萱沼 久美 教諭



11.2.一宮西小 坂野 照美 教諭



11.5.石和西小 長田 る美 教諭



11.12.御坂西小 饗場 千夏 教諭



11.19.春日居小 大瀬 尚子 教諭



11.21.浅川中 石黒 公二 教諭

『灯し続けることば』から

大村はま著『灯し続けることば』(小学館, 2004年7月)という本に「仏様が、ちょっと指で車に触れられました」と題するお話が載っている。「ある時、仏様が道ばたに立っていらっしやると、一人の男が荷物をいっぱい積んだ荷車を引いて通りかかった。ぬかるみがあって、車はそれにはまってしまい、男が懸命に引っ張っても抜け出せない。男は汗びっしょりになって苦しんでいる。仏様はしばらく男の様子を見ていらしたが、やがてちょっと指でその車に触れられた。すると車はすっとぬかるみから出て、男はからからと車を引いて去っていった」という話である。

著者は、「もし仏様のおかげだと男が知ったら、ひざまずいて感謝したでしょう。それも喜びだとは思いますが、男が一人で生き抜いていく力にはならなかったでしょう。一人で生きていく自信、真の強かにはつながらなかったのではないかと思うのです。」と言っている。

本当の教師の姿は、子どもが自ら努力して問題を解決し、前進していくことを人知れず手助けすることであり、あくまでも子どもは自分か頑張ってきたのだと自信と喜びをもって進みつつけることなのである。

また、ロングセラーの本で『君たちはどう生きるか』(吉野源三郎著, 岩波文庫)がある。主人公のコペル君が、いろいろ悩むときにその叔父さんがアドバイスをするという設定である。友達の浦川君の生活からコペル君がさまざまに考える場面で、叔父さんは「君は、毎日の生活に必要な品物ということから考えると、確かに消費ばかりしていて、なに一つ生産していない。しかし、自分では気が付かないうちに、ほかの点で、ある大きなものを、日々打ち出しているのだ。それは、いったい、なんだろう。」(241頁)と投げかけるところがある。

叔父さんは、答えを言わず、自分自身で見つけなければならないと言っておく。のちにコペル君は、「僕には、いま何か生産しようと思っても、なんにも出来ません。しかし、ぼくは、いい人間になることは出来ます。自分がいい人間になって、いい人間を一人この世に生み出すことは、僕にでも出来るのです。そして、そのつもりにさえなれば、これ以上のものを生み出せる人間にだって、なれると思います。」(297頁)と、ようやく答えを導きだす。自ら答えを導くことが肝心なのである。

このような子どもの身になって一緒に考えてくれる大人の姿も大きなモデルである。

さらに『自由と規律』(池田潔著, 岩波新書)に登場するパブリックスクールの校長はじめそこに一生をかけた教師の姿も、われわれに大きな示唆を与えるものである。(2012.12.指導と評価「子どもに望まれる教師」坪田耕三氏より抜粋)



